



[本文監修:南九州歴史学会 画:KENRO]

明治維新150周年企画

かごしま

ISHIN物語

明治維新がもたらしたさまざまな変化を分野ごとにご紹介します。

第2話 薩摩の外交と経済

薩摩藩の莫大な借金を返済し、十分な蓄えまで作った調所広郷と濱崎太平次。諸藩と世界を結んだ五代才助と松木弘安。今回は、交易で経済を発展させた人々のお話です。

登場人物



近代大阪の父
五代才助
(五代友厚)
Saisuke Godai

薩摩藩の地誌『三國名勝図会』を執筆した五代秀堯を父に持つ薩摩藩士。長崎海軍伝習所で学んだ後、上海へ渡航しました。小松帯刀やグラバーと協力して長崎に小菅修船所を建設。維新後は造幣局を大阪に誘致し、現在の大阪商工会議所や大阪市立大学の設立に関与しました。



集成館事業を指揮した
松木弘安
(寺島宗則)
Kouan Matsuki

島津斉彬の侍医として、集成館事業に携わった阿久根出身の薩摩藩士。斉彬の死後、本格的に英語を学び、幕府の遣欧使節団にも選ばれました。薩摩藩英国留学生を率いてイギリスに渡り、維新後は初代在イギリス日本公使をはじめ、主に外交の分野で活躍します。

財政難を乗り越えて近代化へ

日本各地と世界を結んだ薩摩

19世紀初頭、薩摩藩は五百万両もの借金を抱えていました。これは、藩の年間の収入の40倍以上であったといわれることから、この負債がいかに莫大であったかがうかがえます。宝曆治水を代表する御手伝普請(幕府に命じられた仕事や桜島の大噴火などの災害の復旧、さらには幕府や大名との交際費が借金を増やした原因でした。そして、この莫大な借金の対応を担当したのが家老・調所広郷でした。

調所は、五百万両の借金返済を無利子、二百五十年分割払いとすることを大坂(大阪)や江戸の金貸し業の人々に要求。そのかわりに、砂糖をはじめとする奄美群島や琉球王国(沖縄県)の産物、そして琉球王国経由で手に入れた海外からの品々を、彼らに優先的に扱わせることにします。また、指宿の豪商・八代目濱崎太平次に対して船の建造費

を貸し付けることで交易を支援。太平次は34隻もの船を駆使し、薩摩藩内だけでなく、琉球王国の那覇や長崎、大坂、新潟、佐渡、箱館(函館)と全国各地に支店を広げるまじりになります。これらの地を拠点に、北は蝦夷地(北海道)から南は中国広東省や、さらにはジャワ島まで商業圏を拡大させていたともいわれています。

彼は、アワビなどを蝦夷地から調達。樟脳や生糸、寒天、陶磁器などとともに輸出します。一方、絹や氷砂糖の菓子、薬の原料を輸入し、大坂を中心に高値で販売しました。さらに藩の利益を上げるため、特産品の品質向上にも努めます。こうした調所と太平次の努力の結果、五十万両以上の蓄えを作ることになりました。島津家28代斉彬が他に先駆けて近代化を成し得たのは、調所たちによる財政再建が背景にあったのです。

斉彬も産業育成を目指し、諸外国との交易を進めるため、琉球王国や奄美大島の開港を図り、山川港も開港の上、外国人をもてなす施設の建設を計画します。さらに、薩摩焼の品質向上や薩摩切子の開発を通じて工芸品の輸出も構想しますが、斉彬の急死により、諸外国との直接交易は実現しませんでした。

斉彬の志を受け継いだ島津久光・茂久(忠義)らは長崎を舞台に海外交易を目指します。その中心を担ったのが五代才助(友厚)です。五代は長崎滞在中に、上海で諸外国と交易し、その利益をもって留学生をイギリスに派遣すべきと提案。さらに外国と貿易をするためには会社組織を設立する必要がありと考えた五代は、薩摩藩英国留学生を率いて欧州に渡った際、フランス人モンブランと協力してベルギー商社設立に向けて着手

します。

また、外交にすぐれた手腕を発揮したのが、五代とともに欧州に渡った松木弘安(寺島宗則)でした。英語が堪能だった松木は、イギリス政府と直接交渉し、各藩も諸外国と貿易ができるよう働きかけます。やがて、松木のこうした外交が実を結び、長崎や横浜を舞台に西欧諸国との交易も開始することになりました。

明治政府樹立後、松木は外務卿に就任し、外交問題を担当。五代は経済の分野で業績を残し、その後「近代大阪の父」と呼ばれます。彼らが新時代で活躍できたのは、幕末薩摩藩で国内外の人々と外交・経済の分野で切磋琢磨した経験があったからでしょう。

維新紀行

伝統工芸

海外で人気を博した近代薩摩焼

元来、茶器として用いられていた薩摩焼に変化が始まったのが幕末です。調所広郷は苗代川(日置市美山)の住民の生活改善に尽力。島津斉彬も絵付に金や赤をふんだんに用いた金襴手・錦手の創出に寄与しました。斉彬の死後も京都の絵付職人の協力を得て品質が向上。この結果、薩摩焼は幕末から明治初期の万国博覧会で大絶賛され、明治時代、最も日本から海外に輸出された工芸品になったのです。



近代薩摩焼(白薩摩)

今回は 農林水産業の発展